

音楽

「指導者用デジタル教材」を用いた授業展開例

小学校 第5学年 音楽科 学習指導案

東京都練馬区立田柄第二小学校
指導教諭 荻野 靖子

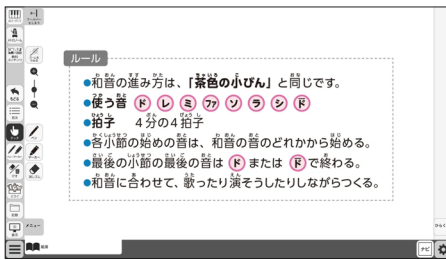
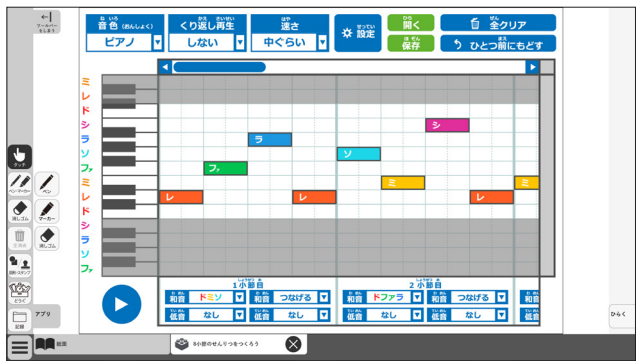
題材名 和音に合わせてせんりつをつくろう（2時間）

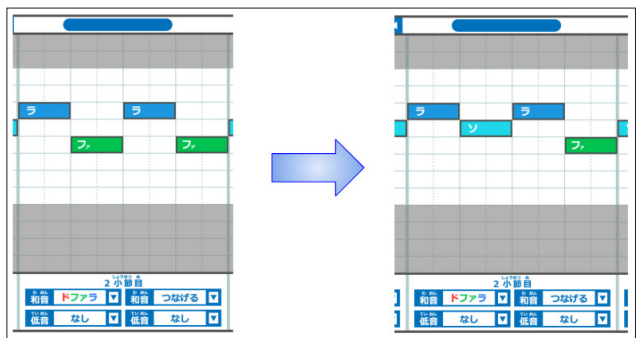
題材のねらい 和音と旋律との関わりや旋律のつなげ方の特徴について理解するとともに、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもち、全体のまとまりを意識した音楽をつくる。

本時のねらい 和音と旋律の関わりや旋律のつなげ方の特徴を捉えながら、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもち、デジタル教材を活用して4小節の旋律をつくる。（2時間）

指導時期 5月下旬

本時（第2時）の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 「目次を開く」から「和音に合わせてせんりつをつくろう」のページを表示する。	
	つくる時のルールを確認し、前時につくった担当小節の旋律を児童二人組で聴き合う。 T：前時につくった旋律を、和音と旋律の関わりから見直してみよう。	
	- 代表児童のつくった旋律を指導者用デジタル教材のコンテンツで再生し、和音と旋律の関わりを全員で再度確認する。使用するのは2分音符・4分音符・4分休符に限定する。 - 実態に応じて、一人またはペアでつくる。ペアでつくる場合は、2小節ずつ分担しつなげてつくる。1人でつくる児童も、ペアで交流し学び合う場を設定する。 - 各自やペアでつくったフレーズのつなげ方を工夫して、まとまりのある4小節の旋律をつくる。 T：旋律の動きに注目して、各自や二人でつなげ方を考えてみよう。	例示に合わせて歌ったり、選んだ楽器（学習者用デジタル教材のおとづくりツール）で演奏したりして確認する。 

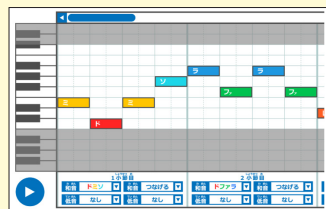
	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	● 教師の例示を聴かせ、近い非和声音に順次進行することや、8分音符のリズムを工夫することで、旋律がよりまとまる点について共有する。 T：和音にない音でつないだり、リズムを変えたりすると、旋律はどのように変わるか考えてみよう。 ● 二人で、さらにまとまりのある旋律になるように、和音の構成音をつなぐ音(経過音)または、8分音符を含めたリズムの工夫を試す。 ● 一人で作る児童も、ペアで交流し、考えを広げたり深めたりできるようにする。	● 比較して聴取し、音のつながりによる旋律のまとまりのよさを実感できるようにする。 
まとめ	つくった旋律を発表する。 ● 各旋律のつながりの特徴やよさについて意見交換をする。	● 児童のつくった旋律を大型モニター等に投影し、旋律のつながり方によさについて全体で共有する。 ● できれば、まとまりのある旋律づくりの工夫の前後を比較し、その効果を実感できるようにする。 ● 発展として、8小節の旋律づくりにつなげる。

指導者用デジタル教材／学習者用デジタル教材 活用の実際

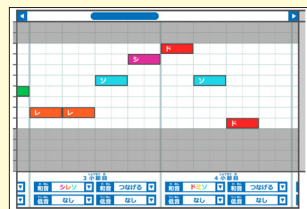
第2時の導入場面

前時では、一人一人が2小節～4小節の旋律をつくる際に、デジタル教材などを楽譜メモ代わりに使用し、本時の導入で共有することも可能。また、互いの旋律をメモして、試行に生かす。

1～2小節



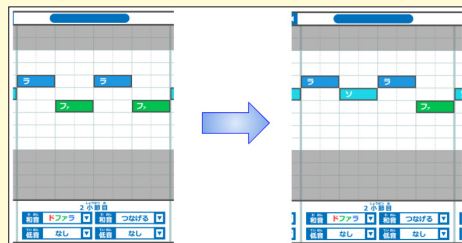
3～4小節



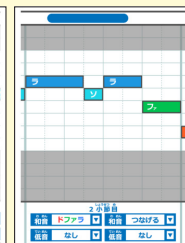
第2時の展開場面

展開場面では、各自がメモをした楽譜上で、リズムを細かくしたり、音のつながり方を試したりする。再生して旋律のつながり方の特徴を比較することで、思いや意図に合った旋律をつくることができ、自らの表現に生かすことができると考える。

変更例1

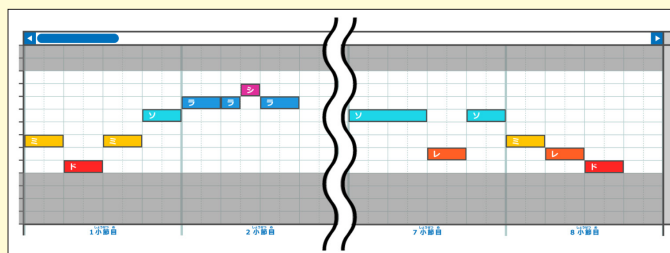


変更例2



第2時の発展場面

学習の発展として、つくった旋律を活用し、8小節の旋律づくりも扱うことができる。



指導者デジタル教材を活用したことで得られた効果

旋律づくりにおいて児童のハードルとなるのは、旋律楽器での演奏試行や音価・音高を踏まえた記録である。デジタル教材に用意されているおとづくりツールは、簡単な操作で旋律を再生したり記録したりすることができる。そのため、限られた時間内に、旋律の音の動きを試しながら、児童の思いや意図を反映し旋律をつくる一助となる大変有効性の高いツールである。また、デジタル教材ならではの特性を活用し、旋律づくりのよさを視覚的にも捉え、考えを広げ深めていく協働的な学びや、児童の実態に応じた条件設定による個別最適の学びの実現にむけても期待が高まる。本題材でつくった旋律を音源データにして、BGMとして学校行事で披露し、生活とのつながりをもたせていくことも想定している。